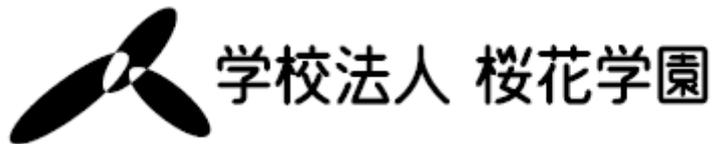


平成27年度

事業計画書



目 次

I	当該年度の主な事業の目的・計画	1
II	施設・設備の整備等	1
III	教育の目的・計画	
	桜花学園大学	
	大学院	2
	保育学部	3
	学芸学部	4
	名古屋短期大学	
	保育科	5
	専攻科保育専攻	7
	英語コミュニケーション学科	8
	専攻科英語専攻	9
	現代教養学科	10
	桜花学園高等学校	11
	名古屋短期大学附属幼稚園	12

平成27年度 事業計画

I 当該年度の主な事業の目的・計画

- 1 桜花学園高等教育部門における定員未充足について、新学科設置も含めた、未充足解消策の検討
- 2 桜花学園大学学芸学部の定員30名減、保育学部の定員30名増に伴う、各学部学科の教育課程等の充実、募集力の強化
- 3 桜花学園大学・名古屋短期大学、桜花学園高等学校の連携の強化、また桜花学園としてのイメージ、ブランド力向上のための広報戦略の強化

II 施設・設備の整備等

桜花学園大学・名古屋短期大学（名古屋キャンパス）

内 容	予算（単位：千円）
体育館トイレ改修工事	20,844
1号館 121・131 教室空調機更新	10,800
図書館 EV 更新	10,155
5号館 521 教室空調機更新	5,616
6号館 キュービクル更新	4,946
図書館キュービクル更新	4,925
照明の LED 化（524 教室）	4,000
合 計	61,286

桜花学園高等学校

内 容	予算（単位：千円）
チェリープラザ 2階理科準備室・LL 教室・3階視聴覚室空調機更新	10,800
本部・学習センター・図書館耐震診断業務	4,759
合 計	15,559

名古屋短期大学附属幼稚園

内 容	予算（単位：千円）
1号館出入口サッシ取替 4箇所（鍵がある場所）	2,062
幼稚園遊具塗り替え	620
3号館会議室エアコン更新	300
合 計	2,982

Ⅲ 教育の目的・計画

桜花学園大学

§ 大学院

1 教育・学生支援について

●重点項目

- (1) 複雑・多様で不透明な現代社会を切り開くための知性と理性を兼ね備えた創造力豊かな高度職業人の養成を目指す。
- (2) 教員によるきめ細かな指導体制を保障するとともに教員と大学院生が質の高い共同研究に取り組む。
- (3) 人間科学専攻においては、日本ではじめての保育学部設立以来 10 余年の歴史の中で培われてきた保育学研究を基盤に、教育学、保育学、心理学の視点から、複雑多様化した現代社会の課題解決に柔軟に対応し実践的・研究的能力を有する人材の養成をはかる。
- (4) 地域文化専攻においては、学部教育における多言語能力の修得を基礎として、高度な英語能力の修得だけでなく、多様な文化や文学・歴史学などの専門的教養を深め、修得した知見を集約して観光・文化政策の立案など現代的課題に挑戦できる専門性の高い人材の養成をはかる。

●新規項目

- (1) 保育学部の上につ大学院として人間科学専攻のあり方について、検討に着手する。

●継続項目

- (1) 人間科学専攻においては、現職保育者など社会人を対象とした高度職業人養成へむけたカリキュラム整備と受け入れ態勢の整備を行う。
- (2) 修士論文指導のさらなる充実と教育の質の向上に努める。

2 学生募集について

●新規項目

- (1) 学部と連携して、学部学生に対する大学院進学への働きかけを推進する。

●継続項目

- (1) 本学園の同窓会組織を通じた広範な宣伝活動の展開を検討する。
- (2) 留学生募集のための研修生制度の設置についての検討を行う。

3 その他

●新規項目

- (1) TA 制度の具体的活用を推進する。

●継続項目

- (1) 大学院生の研究成果の公表へむけた指導を強化する。
- (2) 学園内の各研究所と連携して、教育・研究に取り組む。

5 保育学部

1 教育・学生支援について

平成 27 年度は新たに 3 名の教員が加わり、さらに複数名の後任教員の採用が予定されている。教員の交代を確実に遂行しつつ、必要な分野への適切な教員配置に留意する。学部フォーラムなどを通じて学生の意見や要望を取り上げ、適切に対処していく。

●重点項目

- (1) 平成 28 年度からの 30 名の定員増に対応するため、カリキュラムや授業運営、施設・設備関係などを総合的に検討する。
- (2) 「教職実践演習」「保育実践演習」の内容の充実を図る。
- (3) 実習事前事後指導の内容を、個々の学生の個性やレベルに合わせて実施する。

●新規項目

- (1) GPA 制度の定着と活用の一環として、取得単位上限制度を保育学部教育にふさわしい内容とする。
- (2) 小学校教諭免許取得に関わる授業の履修条件を検討する。
- (3) 学部フォーラムの実施形態を検討し、FD 活動との有機的連携を図る。

●継続項目

- (1) 保育学部教育の目標である「参加・共同・創造」の理念を再確認しつつ、学部学生運営委員会の活動に積極的な支援を行い、学年内・学年間の連携交流の強化を図る。
- (2) 学生の自主実習やボランティア活動を支援し、市町村との多分野での社会貢献活動を拡充する。
- (3) ICT 時代の学習支援として、ネット環境の拡充を検討する。
- (4) 卒業生（現役保育者）との教育、実習、就職関連の連携を図る。
- (5) 名古屋短期大学保育科教員との教育、研究、社会貢献活動などの分野での連携をさらに強化する。
- (6) 保育コンソーシアムあいち、教職コンソーシアム事業の 4 年目として、保育学部の役割を果たしていく。

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 平成 28 年度からの 30 名の定員増に伴い、入試制度全体を検討する。

●新規項目

- (1) 2018 年以降の 18 歳人口の減少に対応できるよう、桜花学園高校との連携の内容を検討する。

●継続項目

- (1) 桜花学園高校との教育的接続に留意し、保育を学びたい高校生たちの動機づけに資する教育活動や情報提供を行っていく。
- (2) 名古屋短期大学保育科や他学科からの編入学制度を含めて、教育的接続を図る。
- (3) 受験生の増加を目指し、就職実績以外の保育学部の魅力を高校生に伝えていく。

3 その他

●重点項目

- (1) 学芸学部との連携を図りつつ、大学改革の中での保育学部の果たす役割を確認し、

必要かつ可能な改革努力を行っていく。

- (2) 平成 28 年の秋に予定されている日本高等教育評価機構による受審に向けて、自己点検評価活動および組織体制の一層の整備を図る。

S 学 芸 学 部

1 教育・学生支援について

平成 28 年度からの定員削減を学生確保のための新たな魅力ある教育プログラムを構築し、より教育効果を高める。

●重点項目

- (1) 平成 28 年度導入に向けた新たな教育プログラムを構築し、実施に向けた準備をする。
- (2) 第 3 期生卒業生の就職・進路の結果をもとに、キャリアサポートシステムを検証し、その支援体制の充実を図る。
- (3) 学修・学生生活支援のためのアドバイザー制度・学生生活指導体制を充実させる。
- (4) 学芸学部学生運営委員会の活動を支援し、学生の自主性を涵養する。
- (5) 卒業時満足度調査等の検証から、4 年間の学芸学部教育及び学生支援体制の改善を図る。

●新規項目

- (1) 学芸学部英語学科のカリキュラム等の改革案を作成し、より魅力ある教育体制を構築する。
- (2) TOEIC、GPA、学修ポートフォリオを検証し、活用した学生指導の在り方を検証し、より効果的な指導の在り方を探る。

●継続項目

- (1) 海外の多様な高等教育機関との提携・連携を積極的にすすめ、学生や教職員の国際交流のニーズに応えうる体制を充実する。
- (2) 学生の修学を支援する e-ラーニングシステム (Moodle) の運営・内容の充実を図る。
- (3) 学生の意見を聴取し、ESC (英語学習センター) の内容及び運用体制の充実を図る。
- (4) 英語教育を強化するようキャンパスにおける英語による学修環境の整備・充実を図る。
- (5) 学生のボランティア活動を支援するための体制を充実させる。
- (6) 世界旅行博・東京ディズニーアカデミーでの研修を継続実施する。
- (7) 海外ボランティアインターンシップを充実させる。
- (8) 学修ポートフォリオによる学習成果の理解をより一層図る。
- (9) キャリア支援及び国内インターンシップ体制を検証し、その充実に努め、学生の就職活動を積極的に支援する。

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 平成 28 年度からの定員削減に伴い、学生確保のための独自色ある教育プログラムを構築し、学科の教育をアピールして、学生確保に努める。

●新規項目

- (1) 平成 27 年度学生募集の厳しい結果を受けて、広報活動のあり方を改めて検証し、学芸学部英語学科の魅力をアピールできる広報活動を全学部一体となって進める。

(2) 大学ホームページを学部学科教育・学修支援、学生の活動をよりわかりやすく、魅力あるものに改編する。

(3) 広報ツールとしてのビデオ制作、Facebook の活用方法を検討し、実施する。

●継続項目

(1) 教員による高校訪問、出前授業等に教員を積極的に派遣する。

(2) 桜花学園高校との教育連携を継続する。

(3) 学部学科を強くアピールする広報チラシを学部学科で作成する。

(4) オープンキャンパスの企画内容を見直し、参加者の満足度を上げるような企画を組み込み、参加した高校生の満足度を高めるよう努力する。

3 その他

●重点項目

(1) 学部学科の改革を進め、学生を確保できる体制の構築に努める。

●継続項目

(1) 女子高校生対象の英語ストーリーテリングコンテストを継続実施し、改善を図る。

(2) 教員の教育・研究能力開発を支援するFD活動を継続実施する。

(3) 学芸学部の教育・研究の情報公開を積極的に進める。

(4) 桜花学園高校での桜花学園大学学長杯英語コンテストに引き続き協力し、桜花学園高校との協力関係を充実させる。

(5) 豊明市、豊田市、土岐市等の地域自治体との提携を含めた地域への社会的貢献を積極的に継続する。

(6) 学部としての自己点検・評価体制を見直し、一層充実し、日本高等評価機構による受審に備える。

(7) 名古屋短期大学附属幼稚園に教員を派遣して、英語教育を継続する。

名古屋短期大学

§ 保 育 科

1 教育・学生支援について

●重点項目

(1) 人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者を育成する。
建学の精神に基づき、より時代の変化に対応できる保育者を育成する。

(2) 短期大学（2年間）で保育に関する実践力を身につける。

ア 4回の実習（附属幼稚園実習 福祉施設実習 保育所実習 幼稚園実習）の指導
希望者は海外保育実習において多様な文化が混在する中での保育の指導

イ 就職進路委員とゼミ教員の連携による就職指導

●新規項目

(1) 新入生に対する適切な履修指導を学科全体で行う。違う学年の学科ガイダンス（教員担当）と履修ガイダンス（職員担当）を同時進行とせず、全ての履修ガイダンスに教員が関わりきめ細かな指導を行う。

- (2) 科会議、研修会等を通して教育の意見交換の場を更に増やし、充実した教育体制を敷く。
- (3) 担当教員(含非常勤)と担当科目のよりよいマッチングを目指し、更に中身の濃い授業を行う。
- (4) 免許更新プログラムにおける担当教員の増員と内容の多彩化を通して社会のニーズに応える。

●継続項目

- (1) 進路就職指導
 - ア 専任教員の専門分野を活かした就職対策講座の実施
 - イ 就職を希望する地域と時期に対応したきめ細かな指導
 - ウ 2年生から1年生への情報提供・交換の機会
 - エ 専攻科進学を睨んで、早い段階からの指導（例：留学に備えた語学・海外事情講義等）
- (2) 国際的な視野を持った保育者の育成
海外保育実習（Australia・New Zealand）と交流プログラム研修（Vietnam）

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 少子化と短大離れに対する学生募集対応策
 - ア 【名短保育】ブランドの維持と積極的広報
 - イ 短期大学2年間の学びについて、そのメリットの細かな広報
- (2) 資格（保育士・幼稚園免許）を取得し、確実に就職できることの広報
- (3) 公務員正職合格者数三桁（事実上日本一）であることの更なる広報
- (4) 四年制大学との併願層を取り込む対策として、魅力ある専攻科をアピールし、四年生大学以上の新たな魅力を広報

●新規項目

- (1) 各種入試別の募集人数の調整
- (2) 指定校とその評定点の見直し
- (3) 教員の高校訪問を増やし、【名短保育】の魅力を高校教員及び生徒に語りかける。
- (4) オープンキャンパス時に、保育科教員より保護者に直接説明する機会を別室に設けて、短期大学に対する理解を深めてもらう。

●継続項目

- (1) 桜花学園高校とのきめ細かなコミュニケーションと連携
- (2) 高校から依頼のある模擬授業への積極的参加

3 その他

●重点項目

- (1) 短期大学の学びと専攻科との連動性
- (2) 学力低下に伴う基礎学力強化に向けた取り組み

●新規項目

- (1) 卒業後の進路として、インターナショナルプリスクールなどの新興施設への対応
- (2) 名古屋短期大学附属幼稚園の今後の将来像を考える。

- (3) 新任教員がスムーズに新たな職場に慣れ、実力を発揮できるようにする態勢を整える。
- (4) キャンパス内専任教員の教育資源の有効活用の観点から学科を超えた教育担当態勢を取る。
- (5) 他学科も含めた名古屋短期大学の将来像について、積極的に学科として発信する。

●継続課題

- (1) カリキュラムの継続的な点検と見直し
- (2) 学内委員と科内委員は、事務職員との連携を更に密にする。

5 専攻科保育専攻

1 教育・学生支援について

●重点項目

- (1) 高度な専門性を備えた保育者育成
 - ア 各自のテーマに合った少人数論文指導
 - イ 討論・時事問題を取り入れた授業展開
- (2) 有資格者として行う長期間実習の意義を確認し、より高度な目的意識の下で学生を指導する。

●新規項目

- (1) 新「特例認定専攻科」の承認に基づいての新たな論文指導体制の確立
- (2) 入学者増に対応すべく、専攻科専任教員の配置
- (3) 留学タイプにおける新規教育提携校（Charlton Brown）との交流
- (4) 専攻科留学タイプの全国展開（インターナショナルプリスクールの多い地域等）
- (5) 専攻科国内タイプと地元豊明市との連携
- (6) 桜花学園大学「新学科構想」の情報共有と意見交換

●継続課題

- (1) 専攻科入試方法の再考
- (2) 平成 26（2014）年度に設置した「専攻科 1 年ゼミ」の更なる発展
- (3) 留学タイプ学生増に対応するため、現地における訪問指導教員と指導時間の増加
- (4) 国内タイプの長期実習と論文指導の更なる充実
- (5) 設置された助手の有効活用。特に海外プログラム関連の業務

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 学内のみでなく他短大にも専攻科の学びを宣伝し、希望者を可能な限り受け入れる。
- (2) 新たに設置した「専攻科指定校制度」を定着させ、他短大からの入学ルートを確立する。
- (3) 既卒高年次（卒業後数年）を含めた、社会人受け入れの姿勢と広報

●新規項目

- (1) 新「特例認定専攻科」を広報し、四年制大学との比較を促す。
- (2) 増加する入学者数に対応する定員の適正化

●継続項目

- (1) 専攻科入試説明会と専攻科留学保護者説明会の更なる充実

§ 英語コミュニケーション学科

1 教育・学生支援について

●重点項目

- (1) 海外英語実習・研修のより一層の充実
- (2) 学生への学修、進路・就職支援
- (3) 英語教育のより一層の充実

●新規項目

- (1) 4ヶ月留学プログラム（「語学留学実習」）の新規実習先の開拓・開設

これまで実施してきたアメリカ・フロリダ州セントラル・フロリダ大学に加え、同州州立セミノール大学と教育提携し、新たに実習を行う。これにより、参加学生により多くの選択肢と教育の機会を提供すると共に、より多くの優秀な入学者を獲得し、学生募集に繋げていく。

- (2) 4ヶ月留学プログラム（「語学留学実習」）と4週間留学プログラム（「海外英語実習I」）が日本学生支援機構「27年度海外留学支援制度」に採択され、奨学金が支給されることを受け、これらのプログラムの魅力をさらにアピールし、より多くの学生が海外での学修の機会を得られるように図る。

- (3) 「English Study Room」の開設

研究管理棟に「English Study Room」を開設。コンピューター数台を設置し、英字新聞、参考図書、留学関連書籍などが自由に閲覧できるようにするなど、学生が英語に触れる機会を増やし、留学などの進路を検討する際役立つような取り組みを行っていく。

- (4) 入学前の学習成果が足りない学生、短大での学習に困難を感じる学生への学習支援を強化すると共に、制度的な整備を図る。

●継続項目

- (1) 26年度に改訂した総合英語プログラムの内容、運営方法、その教育効果・成果などを点検し、より良い内容と制度にしていくよう更なる改善を図る。
- (2) 「ライフ・デザイン」内容の一層の充実と効果的な運用。学生課とタイアップし、学生の進路・就職支援をより強化する。
- (3) 学生の英語力と英語学習の達成度をより正確に判定・測定し、それを英語教育の制度、内容に反映させ、より効果的・効率的な英語教育をめざす。また、学生のモチベーションの向上にも生かしていく。
- (4) 学生へのより適切で効果的な履修指導
- (5) ハワイでの短期海外研修の継続

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 海外英語実習・研修の充実、魅力アップをアピールする。
- (2) 学科の魅力をアピールする為の広報活動の更なる強化

●新規項目

- (1) 4ヶ月留学プログラム（「語学留学実習」）新規実習先開設による本プログラムの魅力アップをアピールすることにより、より多くの優秀な入学者を獲得し、受験者・入学者増を図る。

- (2) 4ヶ月留学プログラム（「語学留学実習」）と4週間留学プログラム（「海外英語実習 I」）が日本学生支援機構「27年度海外留学支援制度」に採択され、奨学金が支給されることなど、海外で学習するチャンス・可能性が広がったことをアピールすることにより、より多くの優秀な入学者を獲得し、受験者・入学者増を図る。
- (3) 新たな入試制度（自己推薦 B 方式「4ヶ月留学プログラム参加・奨学金受給確約型」）による受験者・入学者増を図る。

●継続項目

- (1) オープンキャンパスの一層の充実
- (2) 高校訪問、学科広報資料等の高校生への配布
- (3) ホームページのより一層の充実

§ 専攻科英語専攻

1 教育・学生支援について

●重点項目

- (1) 専攻科英語専攻全体の教育内容、制度・体制の整備と充実
- (2) 課外での学修支援、学修環境のさらなる整備

●新規項目

- (1) 特例適用専攻科として認定されたことを受け、教育体制・運営の整備を点検しながら教育内容の更なる充実を図る。
- (2) 「English Study Room」の開設など、学生が英語に触れる機会を増やし、留学などの進路を検討する際役立つような取り組みを行っていく。
- (3) 桜花学園大学学芸学部をはじめとする同キャンパス内の他学部・他学科との連携を深めることにより、より効果的・効率的な教育とその運営を図る。

●継続項目

- (1) 短大カリキュラムとのより良い連携を図る。
- (2) 専攻科在學生と短大在學生の交流
- (3) より適切で効果的な履修指導

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 専攻科の魅力アップ
- (2) 専攻科の魅力アピール

●新規項目

- (1) 特例適用専攻科として認定されたことを広報に活かしていく。
- (2) その他、27年より開始する新しい取り組み・事業を広報に活かし、魅力をアピールしていく（改訂された教育課程、「English Study Room」の開設などによる学習環境の充実など）。

●継続項目

- (1) 短大学生への広報を強化する（「専攻科説明会」、「専攻科入試説明会」、「専攻科 Presentation」など）。
- (2) 高校生への広報を強化する（ホームページや学科独自の広報チラシの充実など）。

5 現代教養学科

1 教育・学生支援について

●重点項目

学生の入学目標である就職率の向上のために就職支援を充実させる。具体的には

- (1) 各種資格・検定試験対策を充実させ、目標を明確にして学習する。
- (2) 必修科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」の内容を改善し充実させ、就職率を上げる。
- (3) 1年ゼミ・2年ゼミを通して就職支援を継続的に取り組む。

●新規項目

新カリキュラムの理念を生かした教育を実現する。

- (1) 緩やかなコース制を導入したことを活かし、1年のゼミ編成を履修モデルに合わせて組む。それによって、同じ目標を持った学習集団を形成する。
- (2) 学外研修のプログラムを充実させ、参加者を増やす。これにより、大学内での学習だけでなく体験学習を組み合わせた実践的教養教育を行う。

●継続項目

- (1) 学生の満足度を継続して客観的に測定し、学科の更なるカリキュラム改革、教員の学生指導方法の改善などに反映させていく。
- (2) 『キャリアファイル』を活用することにより、学生生活全般を学生自身が振り返り、将来に生かせるように支援する。

2 学生募集について

●重点項目

- (1) 新カリキュラムによる学科教育の広報を充実させ入学者確保を図る。
- (2) 各地で行われる大学説明会、高校の大学説明会などに積極的に出向き、直接現代教養学科の魅力を伝える。
- (3) オープンキャンパスなどの企画において、在学生に直接語らせることによって、生の声を高校生に届ける。

●新規項目

入学者の半数を占める専門科卒業の学生にも魅力的なカリキュラム、資格を広報する。

●継続項目

- (1) 年度前半に行われる推薦入試で、入学生を確保するための施策に取り組む。
- (2) 桜花高校との連携を深め、内部進学者を増やしていくための働きかけを行う。
- (3) 学科の教育内容、行事などを的確に、迅速にホームページに反映させ、広報する。

桜花学園高等学校

1 教育目標・計画

●重点項目

- (1) 女子高校としての桜花の特色をより鮮明にする。
 - ア 学祖の「良風美俗の社会教化」の願いを実践
 - イ 建学の精神「心豊かで気品に富み洗練された近代女性の育成」を目指す。
- (2) 四訓「感謝・規律・奉仕・努力」の理念の具現化を図るための指導（知育・徳育のバランスをとる。）
 - ア 感謝—あいさつの励行、豊かな情操の育成
 - イ 規律—授業規律、身だしなみ指導、言葉遣い
 - ウ 奉仕—校内清掃、地域清掃、環境整備
 - エ 努力—基本的な学習習慣の確立、進路実現

●新規項目

- (1) 5年後10年後を見据えた将来構想の構築とその実践のための諸活動の検討
 - ア 教育活動全般における問題点と課題の明確化
 - イ 小委員会の設置による課題解決と具体的なビジョンの作成
- (2) 英語コース・理数コースの充実を図るための授業を中心とした教育内容の検討
- (3) 特定の教員にかかる過重負担の軽減を図るための方策の検討
- (4) 多様な生徒、保護者への対応のための教員の意識改革
- (5) 各コースにおける必要な学力を付けさせるための授業・補習の内容の検討

●継続項目

- (1) 基礎学力及び応用力の養成のために学年毎の目標設定を明確にし、その実践を図る。
 - ア 1年生—新入生に対する合格発表後の対応と年度当初の学習習慣の確立
 - イ 2年生—進路実現に向けての生徒個々への目標設定等のきめ細かい指導
 - ウ 3年生—推薦、AO入試、一般入試等、多様な入試に対応できる教科指導の工夫
 - エ 各学年ともに英検、漢検、数検などの受検を奨励し、目標を持たせ、充実感・達成感を味わわせる。
- (2) 進路実績の追求
 - 特進、進学コース（文Ⅰ選抜、文Ⅰ、英語、文Ⅱ、保育選抜、保育、理数）の目的を明確化にし、その進路実現のための具体的な指導方法の検証及びその実践（補習、個人指導等）
- (3) 英語教育の推進
 - ア 英検準2級以上の合格を目指す。
 - イ 大学、短大の支援によるネイティブ授業の拡充
 - ウ eラーニングの活用、及び海外研修旅行（語学研修）等への積極的な参加の促進

2 生徒募集

●重点項目

- (1) 日常の教育活動、在校生を媒体としてのPR活動の実践（学校案内、HP、オープンスクール等）
- (2) 一人でも多くの中学生、保護者に来校してもらい、設備、本校の教育活動を見ても

らう。

●新規項目

- (1) 一般入試の受験生を増加させるための手段・方法の検討
- (2) 中学生人口減少に伴う生徒募集の新たな方策の検討

●継続項目

- (1) 中学校訪問—重点訪問を2回（5月、9月）実施、その他は随時
訪問対象中学300校、郵送対象中学150校
- (2) 塾への対応—塾対象説明会及び公開授業6月、模試会場貸与（5、8、11、12月）
塾説明会随時参加、その他個々の塾への随時訪問
- (3) オープンスクール—3回（6、7、8月）
- (4) 学校説明会—2回（10、11月）
- (5) 公開授業—11月上旬1週間
- (6) 個人相談会—11月、12月の休日7日間
- (7) 恩師への手紙—1年 オリエンテーション合宿先から（4月）
2年 修学旅行先から（10月）
3年 進学先等決定報告（12月～3月）
全学年 検定合格結果や高校生活の報告（6月、11月）

3 その他

●重点項目

- (1) 生徒・保護者の期待に応えるためのアンケート調査とその評価を活用して指導力の向上を図る。
- (2) 教員研修の時間を確保し、教員それぞれの資質の向上を図る。

●新規項目

- (1) 研修機会を校内だけでなく校外での機会を増やす。（学校訪問、研修講座の活用）
- (2) 部活動のさらなる活性化を図るための諸施策の検討（活動期間、顧問、手当等）
- (3) 不登校生徒への対応のための組織的なシステムの構築
- (4) SNS利用による問題行動への対策（生徒及び保護者）

名古屋短期大学付属幼稚園

1 教育・幼児支援について

●重点項目

〈教育目標「げんきに あそぶ こども」を目指して〉

- (1) 実践6年目の運動遊びの重点化と身体諸機能の調和的発達の促し
ア 戸外の遊具で体を動かして遊ぶ（鉄棒、登り棒、雲梯、滑り台等）
イ 各学年で運動能力の基礎を培う（走る、跳ぶ、登る、投げる、捕る等）
ウ 園全体で取り組む（合同体操、運動会等）
- (2) 名古屋短期大・保育科体育担当の先生と2年生による運動遊び（年中・年長組）
〈特段に配慮する園児〉
 - (1) 個々の実態把握と保育の工夫及び、年間保育計画の作成

- (2) 外部の支援要請と助言
- (3) 地域の療育センター、医療機関による早期診断
- (4) 障害関係の研修会、講演会への参加

●継続項目

〈基本的な指導と管理〉

- (1) 本園独自の教育課程を展開し、一人ひとりの個性の伸長及び、教育目標の達成
- (2) 遊具の安全な扱いと事故防止の徹底
- (3) 自然環境を生かした花壇や畑の整備と計画的な栽培・収穫
- (4) 朝夕の職員打ち合わせや学年会を通して園児の実態や状況等情報の共有
- (5) 家庭と緊密な連携を図り、協力体制の構築

2 園児募集

〈募集人数〉 年少（3歳） 100名 年中（4歳） 5名

〈園児の確保〉

- (1) 豊かな自然環境を取り入れた保育カラーの打ち出し
- (2) 大学による専門的な指導支援が得られるメリットの強調
- (3) スクールバスルートを見直し、入園エリアのニーズ把握
- (4) 新聞チラシ等による広報の強化

〈募集方法〉（愛知県私立幼稚園連盟の申し合わせ事項あり）

- (1) 幼稚園見学会 6月25日・7月1日
- (2) 入園説明会 9月1日・2日
- (3) 志願票受付・入園面接 10月1日・10月3日

3 大学の指導・支援について

●継続項目

〈大学の支援による日常の保育では得られない多様な体験〉

- (1) 英語で遊ぶ
桜花学園大・英語学科の先生 〈年中・年長組年間5回〉（内1回保護者参観）
- (2) 運動遊び
名古屋短期大・保育科体育の先生 〈年中・年長組年間6回〉（内1回保護者参観）
- (3) クッキング
名古屋短期大・保育科子どもの食と栄養の先生より調理室を使用したクッキング
- (4) 造形遊び
桜花学園大・保育学科図画工作の先生より絵画や工作の指導

4 主な園内行事

●継続項目

〈家庭との連携を深めるために〉

- (1) 保育参観（年間4回）、給食参観、祖父母参観、作品参観
- (2) 大学支援の英語参観、運動参観
- (3) 個人面談（5日間）

〈主な園外保育として〉

親子遠足（大高緑地）、秋の遠足（中京競馬場）、プラネタリウム見学（名古屋

市科学館)、お別れ遠足(名古屋港水族館)

〈誕生会〉 毎月ホールに集い、誕生の子どもたちにプレゼントと祝菓

〈郷土の文化・伝統を次世代に伝える行事〉

(1) 季節の行事として

・子どもの日・七夕祭・夕涼み会・もちつき大会・豆まき・ひな祭り

(2) 親子絞り染め(年長組)

有松の伝統工芸士よりTシャツをくくりクラスカラーで染めて運動会等に着用

(3) 卒園親子お茶会(茶室・桜松庵)

大学茶道部の先生、部員の点前で親子のお茶会

〈鑑賞会、見学会等〉

(1) 鑑賞会・人形劇(劇団むすび座)・音楽劇(桜花学園大学生)

(2) 見学会・豊明市消防署・名古屋市科学館プラネタリウム

(3) 交流会 名古屋市立有松小学校の1年生と「なかよしかい」(年長組)

5 保健計画

●重点項目

〈給食食物アレルギーの対応〉

(1) 医師の診断に基づく依頼書の提出と実態把握

(2) 園側での対応

ア 単品や副食の取り除き、給食調理場の扱い、弁当持参

イ 給食献立表の毎日の点検と確認

〈アレルギー疾患の緊急対応〉

(1) アナフラキシーとエピペン自己注射

●継続項目

〈自分の身体に関心を持ち大切にするために〉

(1) 身体測定(5月、9月、1月)・歯科検診と内科検診(5月)

(2) 手洗いとうがい、歯みがきの励行と習慣化

〈家庭と連携、協力〉

(1) 伝染する病気(インフルエンザ、おたふく、はしか)等の医師の診断と治療

(2) 『早寝、早起き、朝ご飯』で一日元気

6 防災・安全教育

●重点項目

〈幼稚園全体で防災教育に取り組むと共に家庭や地域と連携して〉

(1) 防災マニュアル(防火管理規定、地震防災計画)の作成

(2) 災害の緊急時に適切な行動がとれるように地震・火災の避難訓練(5回)

(3) 保護者へ園児の引き渡しと待機の訓練

(4) 防災用品の保管と点検

(5) 防災に対する教職員の意識化

〈安全指導と対策〉

(1) 交通安全のきまりや習慣が身に付くように

ア 園外保育で信号機の見方や横断歩道の渡り方

イ 豊明市教育委員会交通安全指導として交通指導員より横断歩道の渡り方等

- (2) 安全点検表による定期的な施設、設備の点検と始業前の遊具の巡回
- (3) 不審者侵入対策として保護者の園内出入りやバス送迎の名札携帯の励行

7 親子読書の実践

●継続項目

〈読み聞かせは子育ての柱〉

- (1) 親から子に読み聞かせ
- (2) 絵本の貸し出し返却は毎週月曜日、学級文庫より年間50冊目標
- ア 絵本の定期的な購入と学級文庫の充実

8 子育て支援について

●継続項目

〈預かり保育〉

- (1) 教育課程の教育時間終了後、教育課程に基づく活動と無理のない一日の流れ
 - (2) 通常の保育時間の終了後（午後2時～4時30分）
 - (3) 予約制40名（緊急時受け入れ可能） 1回400円 おやつ有り
- 〈園庭開放〉
- (1) 毎月第一土曜日午前、在園児・未就園児対象（保護者同伴）
 - (2) 開放中は教員の巡回と安全指導

9 教員の自主研修

●継続項目

〈研修会へ積極的参加〉

- (1) 豊明市幼児教育研究協議会主催の職員研修及び公開保育の参加
- (2) 長期休業中に各自のテーマを設定した研究調査と自主研修

〈幼稚園評価〉

- (1) 保育実践の反省と改善、評価表による自己評価
- (2) 外部評価として保護者（さくら会幹事30名）による幼稚園評価と改善

10 教育実習について

●継続項目

〈最初の本格的な実習園として〉

- (1) 名古屋短期大保育科1年生対象（1ゼミ～16ゼミ）
- (2) 実習期間と学年

ア 期間 1週間

イ 学年 年少・年中・年長組10クラス

〈実習内容〉

子どもと共に生活する中で幼稚園生活の理解と子どもの発達過程や教師の援助

- (1) 前期（5月）・後期（9月） 幼稚園ホールでオリエンテーション
- (2) 観察、参加が中心
- (3) 実習記録の作成と提出及び、担任教師の指導と反省